

城山小学校 第889回 平和祈念式 令和7年9月9日

【会次第】

- 1 開式の言葉
- 2 平和学習の発表(6年生)
- 3 「子らのみ霊よ」合唱
- 4 原爆殉難者の碑に黙祷
- 5 少年平和像に拝礼
- 6 閉式の言葉

【6年生の発表】 被爆80周年の年の6年生として、学校を担うリーダーとしての「誓い」を表明しよう。

みなさんにとって「平和」とは、どんなことですか？

どんなときに「平和」を感じますか？

☆私にとって「平和」とは、当たり前のように明日がくることです。☆ぼくは、毎朝元気に登校し、みんなとあいさつをかわすとき、平和を感じます。☆私にとって平和とは、ささいなことでも友達と笑い合うときです。☆ぼくは、自由に出かけられるときに平和を感じます。

そうです。「平和」って、人それぞれの思い、考え、そして、感じ方があるのです。

そんな私たちの思いにぴったりの詩が

8月15日終戦記念日の日の「長崎新聞」に載っていました。

少しだけ自分たち流にアレンジして紹介します。聞いてください。

平和のかたち
それは
朝ごはんの湯気かもしれない。
好きな服を着て
外へ出かけられる自由かもしれない。
友達と笑い合い
「またね」って言えること。
家族が健康で、楽しそうにしていること。
猫を抱き、柔らかな背中をなでる時間。
いつもの場所で新聞をめくる朝。
あの頃。
そう、あの頃にも、「日常」と呼ばれる平和が
たしかにありました。
戦争は、それぞれの平和を奪っていきました。
となりで手を繋いでいた人を
遠くへ連れ去りました。
思い出や、未来までも、焼いていきました。
いずれ、戦争体験者はいなくなります。
その体験を、思いを
直接聞くことはなくなります。
でも、
戦争を経験していなくても
「平和とは何なのか」
わたしたちは考えることができます。
わずかしいことではなくて、
声を荒げず、話を聞く。
小さなありがたさを、ちゃんと伝える。
じぶんにとっての平和を大切に。
お互いの平和を尊重する。
そういう心もちが
「戦争をしない国」を
支えていくに違いありません。
今年、戦後八十年の節目の年。
ただ過ぎていった八十年ではありません。
意思をもつて
愛おしい日常が
守られ続けた八十年間です。
みなさんも
平和の形を考えてみませんか。
あなたの平和は
どんなかたちをしていますか。
(長崎新聞 八月十五日 終戦記念日の新聞より)

平和のかたちって 十人十色
みんなちがって みんないい
だけど 決して 何者によっても
うばわれてはいけないもの

だから 被爆八十年の節目の今
私たちは誓います
被爆九十年
被爆百年を
背負っていくのは私たち
戦争のおろかさ
原爆のひさんさ
決して忘れない
そして
もっともっと学び続け 伝えていく
決して戦争はしない
そう

「平和は城山から」

ぼくたち6年生は、

この2学期ピースナビを中心に戦争のおろかさやひさんさを伝えていきます。

そのテーマは「城山から 平和の種を飛ばし、笑顔の花を世界へ未来へ 咲かせよう!」です。

みんなで心を合わせてがんばります!!



- ◆ 6年生の熱い思いがその声、表情から響いてくる発表でした。全校の前で発信したことを、日々の言動で示し、積み重ねていってくれることが全校のみんなへの大きなプレゼントになることでしょう。